

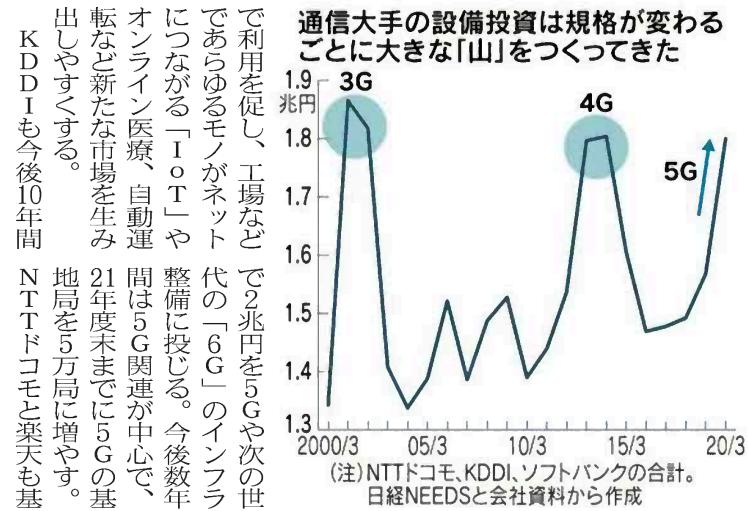
**携帯2社、5G投資4兆円**

ソフトバンク・KDDI、今後10年で

国内通信大手が次世代通信規格「5G」（3面きょうの）とばのインフラ整備向けの投資を大幅に増やす。ソフトバンクとKDDIは今後10年の基地局整備などにそれぞれ2兆円を投じる。通信業界は約10年ごとに規格の世代が変わり、設備の大規模更新が必要になる。前世代の4Gと比べて5Gはスマートフォンやネットサービスなど関連産業の裾野が広く、景気を下支えしそうだ。

# 国内景気けん引

ノートパソコンはこのほど、2030年度までに新規導入を25万局に増やす。都市部の人が集まるエリアを中心に、パソコンや携帯端末などの5G利用を可能にする。その後25年度までに20万局に亘る5Gインフラ整備の長期計画が明らかになるのは、初めてだ。まず、現行で1万局に満たない基地局数を最終的に35万局にまで広げ、5Gを法人向けの通信インフラにする。5Gは大量のデータを遅延なく、多数の機器に伝送や受け渡し。基地局によるカバーベーをきめ細かくすること



地局数を積み上げる公算  
が大きい。  
加基調が強まっている。  
今回の5G向け更新は

加基調が強まっている。今回の5G向け更新は4Gと比べて幅広い国内

車電話などアナログの「第1世代(1G)」が登場した1980年代から、ほぼ10年周期で進化してきた。日経NEEDSの調べによると、前世代の4G規格の整備は2001年～14年にピークを迎えた。ドコモなど3社の設備投資額合計は年1兆8千億円に達した。その後投資額は下振れたが、5Gの始まりにあわせ19年から増

る。基地局の場合、米中摩擦の余波で各社は華為技術(ファーウェイ)製品を使いにくい。NECや富士通にも商機が巡ってくるとされる。

5G対応スマホの需要も広がる。4Gに比べ部品点数が多くなり、部品メーカーへの恩恵は小さい。半導体大手のゼオクシンシアが5Gスマホ向

けのメモリー供給量を増やるために、1兆円を投じて新工場を建設することを決めるなど、新たな投資も呼び込んでいる。もっとも、日本の5G普及は世界では出遅れて、韓国が首位だった。米国は4位、中国は8位で日本は13位だ。

ノートパソコンはこのほど、2030年度までに新規導入を25万局に増やす。都市部の人が集まるエリアを中心に、パソコンや携帯端末などの5G利用を可能にする。その後25年度までに20万局に亘る5Gインフラ整備の長期計画が明らかになるのは、初めてだ。まず、現行で1万局に満たない基地局数を最終的に35万局にまで広げ、5Gを法人向けの通信インフラにする。5Gは大量のデータを遅延なく、多数の機器に伝送や受け渡し。基地局によるカバーベーをきめ細かくすること

通じて利用を促す。KDDIも今後10年間	転など新たな市場を生み出しやすくなる。	NTTドコモと楽天も基	で2兆円を5Gや次の世代の「6G」のインフラ整備に投じる。今後数年間は5G関連が中心で、21年度末までに5Gの基地局を5万局に増やす。	で利用を促し、工場など
兆円	1.9	1.8	1.7	1.6
200	1.5	1.4	1.3	1.2
200	1.1	1.0	0.9	0.8

今回の5G向け更新は4Gと比べて幅広い国内への波及効果が期待される。基地局の場合、米中や富士通にも商機が巡ってくるとされる。

5G対応スマホの需要も広がる。4Gに比べ部品点数が多くなり、部品メーカーへの恩恵は小さくない。半導体大手のキオクシアが5Gスマホ向

けのメモリー供給量を増やすために1兆円を投じて新工場を建設することを決めるなど、新たな投資も呼び込んでいる。

もっとも、日本の5G普及は世界では出遅れている。英調査会社オムニアが各国の通信エリアなどを分析し6月に公表した5G市場調査では、普及の進捗は韓国が首位だった。米国は4位、中国は8位で日本は13位だ。